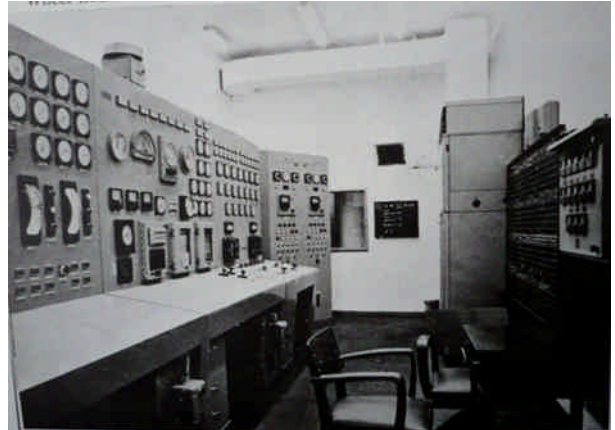


昭和 38 - 39 年の WHEELHOUSE, CONTROL ROOM

1) W38 - 01 「徳洋丸」 WHEEL HOUSE

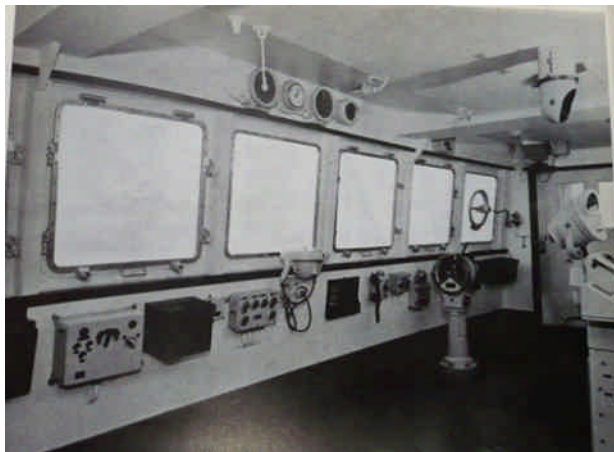


2) W38 - 02 「徳洋丸」 ENG.CONTROL ROOM

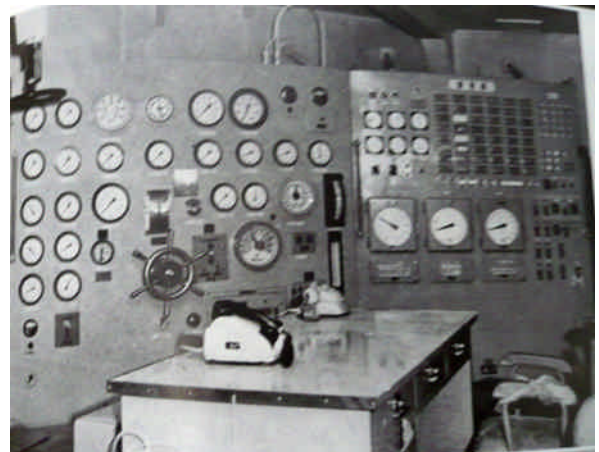


- ・ 1) 2) は「船の科学」1963-3 VOL.16 NO.3 より
- ・ 第 17 次油槽船 徳洋丸 DW 51,561 Kt
- ・ 船主 : 大洋商船 (株) ・ 建造 : 佐世保重工業 (株) 佐世保造船所 昭和 38 年 1 月 31 日 竣工

3) W38 - 03 「太和丸」 WHEEL HOUSE

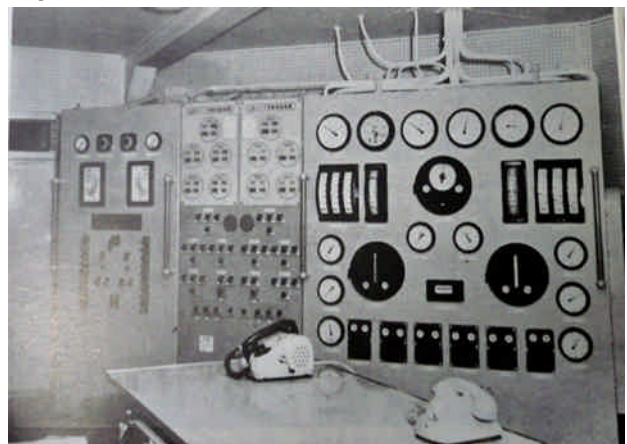


4) W38 - 04 「太和丸」 中央制御室 - 1



- ・ 3) ~ 5) は「船の科学」 1963-6 VOL.16 NO.6 より
- ・ 第 17 次計画造船 自動化大型タービン・タンカー「太和丸」
- DW : 71,500 t
- ・ 船主 : 太平洋海運 (株)
- ・ 建造 : 三菱造船 (株) 長崎造船所
昭和 38 年 3 月 15 日 竣工

5) W38 - 05 「太和丸」 中央制御室 - 2

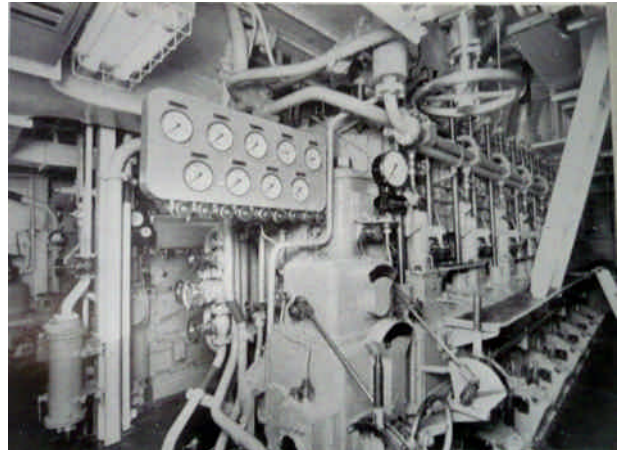


- ・ 4) 中央制御室 左より 主計器盤、警報盤、手前は Log Table.
- ・ 5) 中央制御室 左より スーツプロア操作盤、バーナ盤、ボイラー計器盤

6) W38-06 「おきじ丸」 WHEEL HOUSE

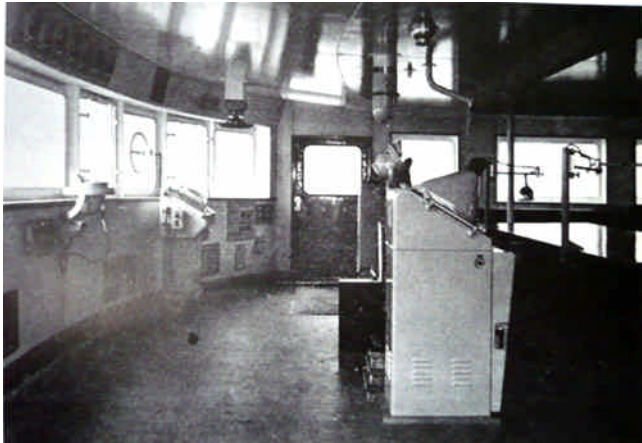


7) W38-07 「おきじ丸」 機関室 計器盤

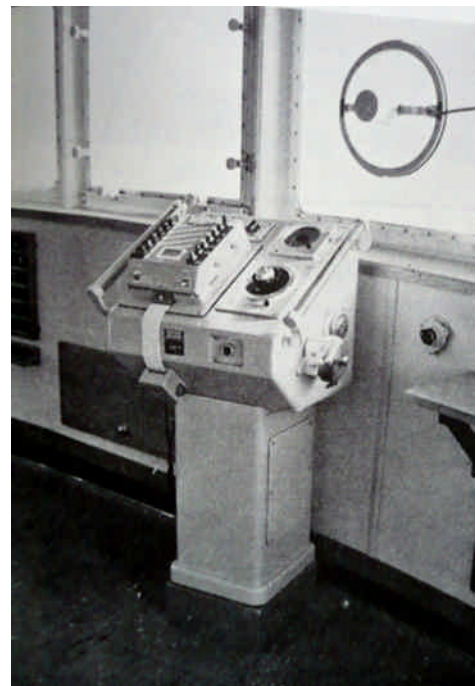


- ・ 6) 7) は「船の科学」1963-7 VOL.16 NO.7 より
- ・ 船主 : 特定船舶整備公団 と 隠岐汽船(株)
- ・ 建造 : (株)新潟鉄工所 昭和38年5月12日竣工
- ・ 旅客船 「おきじ丸」

8) W38-08 「竜田丸」 WHEEL HOUSE



9) W38-09 「竜田丸」
Bridge Control Stand

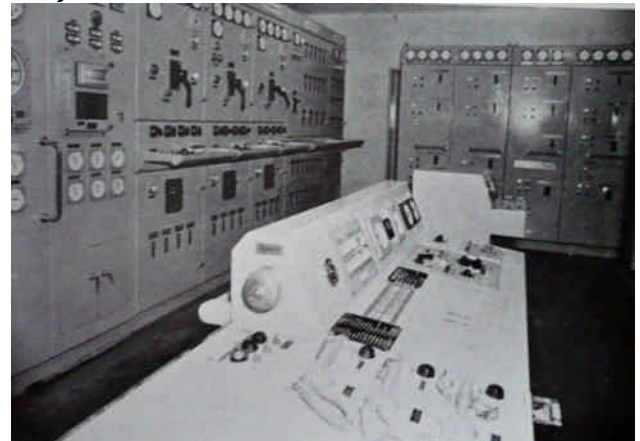


- ・ 8) ~ 12) は「船の科学」1963-10 VOL.16 NO.10 より
- ・ 第18次計画造船 油槽船「竜田丸」 DW : 58,000 T
- ・ 船主 : 三井船舶(株)
- ・ 建造 : 石川島播磨重工業(株)相生第一工場
昭和38年9月1日 引渡し

・ Wheel House の右舷側に Bridge Control Stand が見える。
その詳細が 9) の写真である。

- ・ 10) は Engine Control Room で主配電盤や Control Console が見える。
- ・ 下図 11) は貨物油荷役集中制御室で、Graphic Panel、液面計が見える。
- ・ 下図 12) は Cargo Oil Pump Panel でタンカーにとっては重要な Cargo Oil Pump の発停を行う制御盤である。

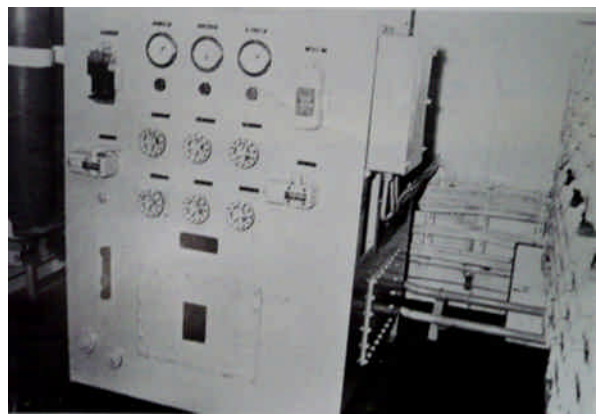
10) W38-10 「竜田丸」 機関制御室



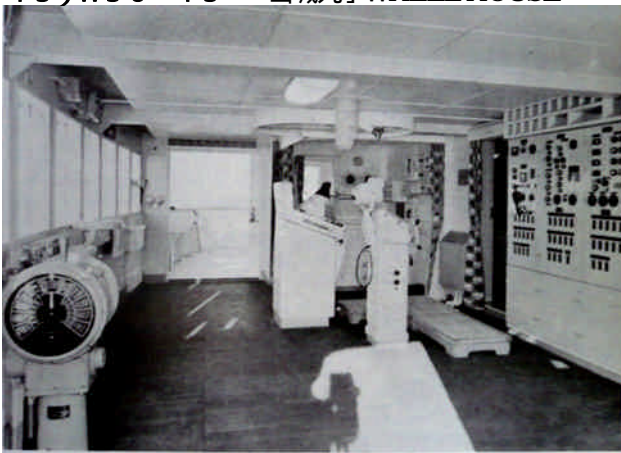
11) W38-11 「竜田丸」貨物油荷役集中制御室



12) W38-12 「竜田丸」 Cargo Oil Pump Panel



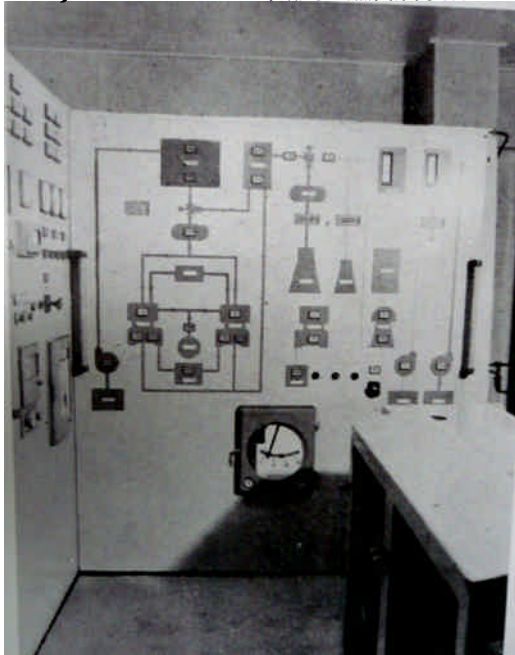
13) W38-13 「山城丸」 WHEEL HOUSE



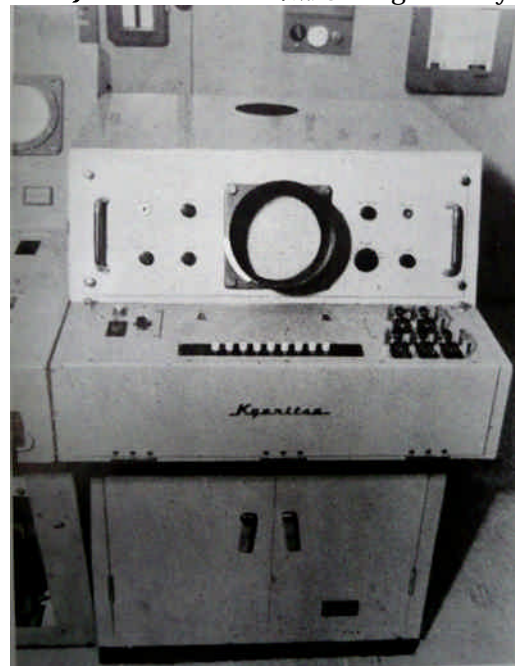
14) W38-14 「山城丸」 Engine Control Room



15) W38-15 「山城丸」 燃料油系統 Graphic Panel



16) W38-16 「山城丸」 Engine Analyzer



- ・13) ~ 16) は「船の科学」1963-12 VOL.16 NO.12 より
- ・超高速定期貨物船「山城丸」 DW: 12,897 Kt ・船主 : 日本郵船(株)
- ・建造 : 三菱造船(株)長崎造船所 昭和38年11月9日 竣工
- ・13,000馬力で、最高22.45ノットを実現と記されている。

- ・ Wheel House の右舷側の隅はカーテンで仕切られているように見える。Chart Space が設けられている。天井灯は蛍光灯になっている。
- ・ 14) は Engine Control Room 。奥に 15) の燃料油系統の Graphic Panel が見える。また中央の Console の上には Braun 管を使用した 16) の Engine Analyzer が装備されているの見える。
- ・ [山城丸 Engine Analyzer] については 「船舶」 1964-1 VOL.37 VOL.1 に下記の記事がある。ディーゼル機関の各気筒内の圧力を測定し、これを遠隔指示せしめる装置。機関室内で機関のシリンダーの内圧の変化および燃焼状況を観測することができる。
圧力ピックアップは直径10mm、長さ25mmの可動陽極型小型特殊金属真空管 (RCA 5734) とある。

17) W39-01 「みししっぴ丸」 WHEEL HOUSE



18) W39-02 「みししっぴ丸」 制御室



- ・ 17) 18) は 「船舶」 1964-2 VOL.37 NO.2 より
- ・ 「みししっぴ丸」 DW : 11,978 Kt
- ・ 船主 : 川崎汽船 (株)
- ・ 建造 : 川崎重工業 (株) 昭和 38 年 12 月 18 日 竣工
- ・ 完全自動化船への試験船と記されている。
- ・ WHEEL HOUSE に工業用テレビの受像機が 2 台装備されている。船首、船尾にカメラを装備し、W/Hで監視し、また遠隔操作できるようにしたもの。

[メモ]

- 1) 機関制御室を設けるのが一般的になってきたのが窺える。配置もコンソールもすっきりしてきた。
- 2) 機関関係ばかりでなく、貨物油関係や Cargo Oil Pump 関係にもコンソールを設け、Graphic を用いるなど遠隔監視 / 制御の動きが見られる。
- 3) 主機関の筒内圧の測定や燃焼状況を観測表示するための装置 Engine Analyzer が装備された (山城丸)。これは新しい試みである。
- 4) 船首、船尾の遠隔監視のため工業用テレビが採用されたのも新しい試みである。(みししっぴ丸)